

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

博物館ANNIVERSARY YEAR・2017
開館20周年を迎えます!



大きな節目の「2017年」。今から20年前の4月24日、甲斐黄金村・湯之奥金山博物館は開館いたしました。

あれから20年…。良いことも、またそうでないことも、様々な出来事がありました。国史跡のガイダンス館であり、観光施設でもある町営博物館。地域のための生涯学習拠点として、様々な役割を担いながら今日まで歩みを進めることができたのは、多方面における先生方をはじめ数多くの関係者の皆様、博物館応援団の皆様、そしてご来館くださったたくさんのお客様、感謝しきれない程の多くの方々のお力添えがあっはじめて、博物館施設としての役割を果たすことができました。

皆様のご期待にお応えすべく、ここまでの20年の歩みを集大成し、これからの5年先、10年先、そして再びの20年目の未来を美しく迎えられるよう、礎を作っていくために、スタッフ一同変わらず皆様のお力添えをいただきたく存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

周年雑感—開館20年となる2017年を迎えるにあたって—

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長 出月洋文

2016年も幕となり、2017年の幕開けと続く頃合いとなっています。この時期に頭に浮かぶいくつかのことを書き留めたいと思います。

2016年の文学界といいますか、もっと広めに文化面で大きな話題を残したのは、夏目漱石の没後100年の各種イベントで、同時に生誕150年にも当たっていたことから、展示会やテレビの特別番組やら様々に盛り上がりを見せました。

そんな中、岩波書店のPR誌『図書』にも多く記事が見られましたが、一つ取り上げたいものに「漱石の「一字下げ」と題する、近代文学がご専門の宗像和重さんのエッセイがありました(『図書』第813号)。今書いている文章も当たり前、段落のはじめを“一字下げ”にしていますが、これを最初に行ったのは彼の漱石先生なのだという話です。こうした普段見逃しがちなことからも、記念すべき周年に際してならではの話題かと思われました。

話は転じますが、わが湯之奥金山博物館の最寄り駅は、JR身延線の下部温泉駅ですが、最近そこに変わった歴史モニュメント(?)を見つけました。線路を横断し駅舎の西を通過する県道に面して、雨除け施設が設置されていますが、その構造材は古レールの再利用によるものとなっています(写真参照)。

鉄道のレールには、1本ごとに製造段階で刻印が打ってあります(ただし陽刻)。再利用レールを見かけると、刻印を探すのも楽しいことで、



ざっと見渡したところ1か所だけ確認することができました(写真の指示個所)。1946年製です。長く列車の通過を支えていたのですが、既定の磨滅状態に達した

ためか廃棄され、ここで第二の生を歩んでいるのです。

身延線は大正2(1913)年の富士身延鉄道に始まり、長らく「下部駅」といった同駅も昭和2(1927)年の開設ですから、このレール、近くで使われていたものかもしれません。それが現役引退し古希(満70歳)を迎えてもなお頑張ってくれています。

さて、この秋になって、地元民法の放送の合間に「甲府・開府500年」というメッセージが流れるようになりました。すでにご案内かとも思いますが、山梨県の県都・甲府の始まりは、1519(永正16)年に、戦国大名としての地位を固めつつあった武田信虎が、それまでの石和の地(今の甲府市川田町)から甲府の躑躅ヶ崎に居館を移したことにあり、新居館の周囲に家臣を集住させ、徐々に城下町が形成されていったことにあるとされています。

山梨の歴史における信虎の事績は、子の信玄に比べ一段と低く評価される傾向にあり、こうした基本的なことも県民にはあまり知られていないように見受けられます。近く来る2019年には、わが県の中核をなす都市が誕生して500年になるというものですが、ひとえに信虎の情勢判断によること大といえます。都市誕生400年を記念するイベントは2000年前後に全国各地でみられたのに対し、500年というのは、奈良や京都などを別格に地方では稀有のことに属します。これについて、山梨を挙げて祝い、いろいろな形で記念イベントに参加・参画しようという、メモリアルイヤーに向けた意識高揚を、先にもふれた地元放送局を通じてのメッセージは期していると理解されるのです。

周年雑感の結びに、おかげさまで2017年には、当館も開館20周年を迎えます。どんな企画が飛び出しますやら、どうぞお楽しみに……。

中山金山遺跡調査

9月22日(木)・11月17日(木)

湯之奥中山金山遺跡の総合学術調査が行われて約30年という長い月日が経過しようとしています。当時の調査成果は、当館の展示活動等を通じて今なお多角的な鉱山研究の指針となっていると自負するところです。また継続的な現場調査と、その実績の積み重ね、新しい情報提供と公開の姿勢を崩しません。

しかし、戦国時代の鉱山の範囲は広大なものであり、総合調査されたからと言って全てが調べ尽くされているわけではありません。総合調査から長い年月が経過すれば、また新たな調査手法や調査技術が出てきます。松江工業高等専門学校教授の久間英樹教授と共同で行っている坑道形状測量も新たな手法のひとつであり、数年をかけて毛無山山体の中山、内山、茅小屋の湯之奥3金山はもちろん、尾根を越えた静岡県側の麓金山にも及び、継続的な調査が現在も続いています。今年、5月の現場確認調査から数えて、去る9月22日と11月17日の計3回の中山金山遺跡確認調査と形状測量調査を行いました。

その結果、今回新たに確認できた内容とその成果は

- 【1】 総合調査時に確認されていた中山金山遺跡内の16本の坑道のうち、現在確認できるわずか6本(⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑯)以外の坑道(①～⑦その他坑道)へのおおまかなルートと坑道の位置確認。
- 【2】 ⑨、⑫、麓金山側のレール付坑道内の3次元レーザー測量によるデータ取得とそのデータ化。



3Dデータ化に成功した中山金山遺跡のX-50露天掘り跡

【3】 「大露天掘り跡」と呼ばれるX50の3次元レーザー測量によるデータ取得とそのデータ化。

【4】 総合調査時の中山金山遺跡測量図にポイントされていない露頭掘り跡と2か所の坑道確認(詳細確認を必要とする)。

以上4点が明らかとなりました。坑道測量データは、久間教授のご協力のもと、既に館内の坑道内部再現プロジェクターにより展示公開しております。現博物館スタッフにとってはこれまで未確認だった坑道群の位置確認とそれらの坑道へ行くためのルート確認は、自然の脅威によるルート荒廃、消失の前に、後世のためにも現場に残る歴史事実として残しておかなければなりません。

最新技術を駆使した今回の坑道測量調査により、総合調査報告書にも掲載されている中山金山の2段に分かれた坑道⑫に「実は…」という事実が隠されていたことも明らかになりました。その新事実の詳細については、機会を別に譲ることにします。概要については、2月のフォーラムにて発表させていただきますのでこちらも楽しみに。

常葉金山探検見学会

12月3日(土)



開会式の様子

今年の遺跡見学会は、地元身延の「常葉金山遺跡」。町内には6つの金山があり、そのうちの川尻、栃代、常葉の三金山は近代に操業していたものの、詳細が分からないというのが実情です。特に常葉・栃代は資料がなく、長年現場を調査することができなかった遺跡の一つでしたが、今回の見学会では、県学術文化財課・埋蔵文化財センターの専門職員や、石工の専門の職人さん、いろんな方々が貴重な休みを使ってご同行くださいました。現場下見の際に不思議に感じていた巨石群や残されている遺構を、限られた時間の中で検討していただきました。

「いろんな目で見えて検討することによって、新しい何かが見えてくることは良くあること。」という学術文化財課の宮里さんの言葉どおり、未解明だった常葉金山を検証する第一歩となりました。

そんな常葉金山を調べるきっかけと情報をくださったのは、地元出身の渡辺織枝さん（北海道在住）。個人的に興味があり、子どものころから調べ続けてきた地元の山の遺構についていろいろ知りたいという希望と、当館の地元の金山遺構を調査したいという方向性が合致し、現場下見や情報収集を重ねた結果、今回の見学会にと結びついたというわけです。

当日は、渡辺さんを含めた総勢34人が常葉金山へ向かいました。今回の見学のポイントは二つ…。道中片道3時間以上かかる道のりですが、

約1時間半の地点にある限界集落の跡地と、さらにその山際に広がる巨石群と遺構。2つ目は、最終目的地である「常葉金山操業地付近」です。

第1ポイントでは、文化財石垣や遺構検討の専門家が巨石に残された矢穴の跡や、道具を使った面打ちの痕跡、石組同士を見ることによる時代の違いなど、石組みや巨石群を前にして検討していました。一般の参加者向けに解説いただいた際には、「現時点では早急な結論は出せないが」という前置きのもと、様々な角度からの可能性の指摘がありました。

昼食後は、“遺構検討組”と“金山操業跡調査組”の2班に分かれ、当館スタッフを含め10人程が第2ポイントに向かい、『下部町誌』に載っている大岩が目印の「常葉金山遺跡」付近にたどり着きました。目印の巨石は「奥の山の神」とも言われていたという説もあり、同行した町の文化財担当は「山岳信仰のようなものが混在しているようにも見えるし、さっきの集落の中の山の神が「里宮」でこちらが「山宮」というような雰囲気かもしれない」という見解も示していました。そんな中、渡辺さんと参加者とで、聞き取り調査の結果を現場に照らし合わせながら、金山遺構がどのあたりに存在するのかなどを検討したものの、周囲を細かく深く検証する時間が足りない状況でした。

しかし、これまで詳細が分からなかった常葉金山の調査研究について、今回の見学会でやっとスタートラインに立てたということもでき、さらに金山跡という側面だけでなく、特殊な石組



巨石群を観察して調べている様子

技術が存在していた可能性が何を意味するのかという新たな課題も浮かんできました。

閉会式では「金山の跡地というイメージで来たが、残されている石組群がいろいろな意味で興味深く、これを足掛かりにいろいろ調べ、また地域の方々も一緒に歴史の紐解きが出来ていければ」



集落跡地にのこされる石組群



常葉金山跡目印の最後の大岩「奥の山の神」

というまとめがなされました。当館も少しずつではありますが、湯之奥金山関連の金山遺跡ということで、今後も調べを進めていきたいと思っています。常葉金山操業時のことについて何かご存知の方がおられましたら、お気軽に情報をお寄せくださるようお願いいたします。

「世界キャラクターさみっとin羽生」参加！

博物館活動の傍ら、別のところで大活躍だったのはわれらがもーん父さん。この秋も、各種おまつりにお邪魔してお友達と写真を撮ったり、道の駅でお祝いしたり、はたまた同窓会や運動会に顔を出したりと、日によっては、一日のうちで3か所のイベントをかけ持つという大忙しのこの秋、いろんなところに引っ張りだこでした。そんな中、もーん父さん自身を皆さんに知ってもらい、それをきっかけに博物館や身延町を訪れてもら

11月19日(土)、20日(日)

う格好の宣伝場所として、埼玉県羽生市で開催された「世界キャラクターさみっとin羽生」に参加してきました。「お父さんなんだ?」「かわいー、目がうるうるー!」「お父さんなのに何で幼稚園みたいな服なの?」などなど、たくさんのお声がけをいただき大忙しでした。

もーん父さんは博物館と身延町のPRにこれからも頑張りますので応援をよろしく願います。

もーん父さんお出かけ活動一覧

- 9月25日(日) 久那土小、西嶋小、原小 各校運動会
- 10月1日(土) ぐるり富士山風景街道一周清掃イベント、下山小運動会
- 10月2日(日) 身延小学校運動会
- 10月9日(日) 蕪崎市「ニーラの魔法パレード」、しもべ道の駅よってけしまつり
- 10月15日(土) JRさわやかウォーキング『特急ふじかわ』お出迎え&お見送り、南部警察署防犯キャンペーン、しもべ荘秋まつり
- 10月16日(日) 和紙の里まつり、波高島おまつり
- 10月22日(土) 談合坂SAキャンペーン
- 10月28日(金) JR静岡駅観光キャラバン
- 11月3日(木) みのぶまつり
- 11月5日(土) 道の駅つる開所式典
- 11月13日(日) JRさわやかウォーキング『特急ふじかわ』お出迎え&お見送り、身延高校卒業生同窓会
- 11月19日(土)、20日(日) 埼玉県羽生市「世界キャラクターさみっとin羽生」
- 11月26日(土) 下部温泉郷「いい風呂の日」イベント

送り先は、
〒409-2947
山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 もーん父さん
届いた年賀状には、もーん父さんより
必ずお返事をさせていただきます。

もーん父さんへの年賀状も受付中!

「醍醐山から毛無山を眺めよう」

12月4日(日)

全国的にも例に見ない、あまりにも早い11月の降雪のため一週間延期となった醍醐山一斉登山でしたが、翌週にあたるこの日、「醍醐山を愛する会」と共催という形で無事に開催されました。総勢約70人の大所帯での登山でした

が、全体の運営は同会にお任せし、当館は道中のサポートなどに徹しておりました。開催にあたり、ご準備されていた醍醐山関係者の皆様、そしてご参加された皆様、お疲れ様でした。

峡南高共催事業「錫クラフト体験教室」

12月17日(土)

湯之奥金山博物館と山梨県立峡南高等学校では、体験研修を通して生徒たちの経験値や知識を豊かにする地元の博学連携事業として、様々なイベントを企画開催する中で、毎年この時期に、錫クラフト体験教室を開催しています。

講師役の生徒たちに、引率の五十嵐智則先生は「常に前回の反省点を改善して臨むように」と言われてきましたとおり、圧延機を持ってきた生徒の皆さんが、薄く薄く伸ばした錫を正方形に切り折り鶴を作成したりと、本編とは別枠の視点で珍しい作業を加えながら、参加者の皆

さんに驚きを与え、生徒たち自身のいろんな技術や工夫が光った体験教室となりました。



「錫クラフト体験教室 第2回目」は 2017年2月18日(土) 11:00～13:00

今回参加出来なかった方、ご興味ある方、どんどんお申込みください。

青少年育成事業「オリジナルキャンドル作り」体験教室

12月18日(日)



身延町平須の施設『県立なかとみ青少年自然の里』が長年行ってきた体験事業を、同じ生涯学習課の当館が継承するという経緯から開催した「オリジナルキャンドル作り体験教室」。自然の里で講師をされていた望月聡先生を迎え、小学3年生から大人まで13名の方が参加してくださいました。

ガラスコップの中にどんな飾りを、そしてカラーサンドをどんなふうに配置するかがポイントのジェルキャンドル。かわいらしい海を表現したものや、山を表現したものなど、中には自分で用意したオブジェでオリジナルカラーを前面に打ち出した人もいましたが、いずれも、世界に一つだけの素敵な作品が出来上がりました。

この秋も、金山博物館がテレビに登場しました

砂金や金山がテレビ番組の中でも取材されることが多かった今年、当館もいくつもの番組撮影に協力し、テレビO.A.されました。ご覧いただいたでしょうか。

10月1日(土)、長野朝日放送(9時30分~17時30分)の超大型スペシャル番組『みつめて信州 生テレビ2016』の中での1コーナーで長野の川端下金山が取り上げられました。当館は、そこで金山の歴史の一端を紹介する場面で協力し、また、博物館応援団の方も生放送で川での砂金採りに出演しました。

11月20日(日) 午前8:55~9:30(NHK-BSプレミアム)『みんなDEどーもくん!』では地元・常葉保育園のこどもたちとどーもくんが“金

について学ぶため博物館を来訪、金について勉強して砂金採りに挑戦する映像が流れました。

11月22日(火)午後7時25分~午後7時50分(再放送土曜午前10時)『すイエんサー』(NHK Eテレ)では、光り輝く黄金をGETするミッションを与えられたすイエんサーガールズが自ら取材、探索し、金を手にするまで帰ることができないという内容。2週にわたって放送されたうち、後半でO.A.された回では、博物館応援団の方の協力がありました。

多くの方々身近に博物館を知っていただき、また未来を担う多くの子どもたちが、「学ぶこと」に興味をもってくれるよう、今後も多くのテレビ番組の取材に対応していきたいと思えます。

もーん父さんマスコット 完成!

多くのお客様から「ぬいぐるみとかマスコットとかないんですか?」とよく聞かれたもーん父さん。お待たせしました。もーん父オリジナルグッズ最新作のマスコットが完成。

スタッフ一番のこだわりポイントは「もーん父さんを知ってても知らなくても、誰が見てもかわいい」こと!頭にお友達の猫を乗せ、背中にはお出かけのテンガロンハットを背負って、手には「パンニング皿」を持っているという、金山

要素もりだくさん。ピンクのオリジナルタグの裏面にはもーん父さんのプロフィールが。タグすらかわいいという逸品。あなたのカバンにもつけて、いろんなところへもんちゃんを連れて行ってあげてください。博物館売店で好評発売中♪



湯之奥金山博物館 ビックリ!砂金缶「福缶2017」 限定発売!



2017年の福缶ラベルは、昨年よりもさらにめでたい雰囲気。中身も充実★

昨年の好評に引き続き、福缶2017(限定20個)が今年も登場。昨年を目玉・特大砂金に代わって、今年純金ミニ小判入り!福缶特別ラベルで金色もーん父さん置物も入ったお得缶。

ニューイヤーにちなんで価格は2,017円。通常砂金缶とは中身も値段も異なります。お子さんやお孫さんへのおとしだま代わりに、年内は12月26日(月)から販売開始、新春開館1月2日(月)も店頭並びます。ただし、限定20個。数に限りがありますのでご希望の方はお早めに。(純金ミニ小判の形、大きさ、重さはそれぞれ異なりますので、予めご承知おきください。)売店ではそれ以外の各種福袋もご用意しております。新春は金山博物館でお楽しみください。

“楽しい大人”の“楽しい研究発表会”

第5回「金山遺跡・砂金史研究フォーラム」のお知らせ

■期 日：平成29年2月4日(土) 午後1時～5時
■場 所：博物館映像シアター（博物館2階）
■参加費：500円（資料代として）
【主 催】 博物館応援団Au会
【共 催】 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
（※発表時間は15分+質疑応答5分=20分）

どなたさまもお気軽にお誘い合わせのうえ、ご参加ください。参加お申込み・問い合わせは、湯之奥金山博物館内・湯之奥金山博物館応援団事務局(0556-36-0015)まで。

「博物館応援団Au会」の皆さんが企画開催する、大好評の“誰でも気軽に参加できる大人の研究発表会”「金山遺跡・砂金史研究フォーラム」。5回目を迎える今回は2月4日(土)に開催いたします。

金山研究の発表や、金山博物館を拠点にフィールドワークを展開している皆さんの経験や体験、疑問点などをテーマに発表いたします。

発表予定者と演題 ※順番は確定ではありません。

- 出月 洋文（当館館長）「2016年度後半の金山博物館周辺事情」
中川 清（山梨県）「岐阜県中津川市の砂金」
中村 軒一（愛知県）「越中諸金山の考察」
久間 英樹（松江高専教授）「3次元レーザースキャナを用いた湯之奥中山金山の定量解析」
広瀬 義朗（神奈川県）「飛騨の金山～松谷鉦山追加調査と森茂金山を歩いて～（仮）」
八巻與志夫（釈迦堂遺跡博物館副館長）「増富金山に関わる報告（仮）」
石田 政明（神奈川県）「砂金採り体験場巡り（西日本篇）」
福井 玲（岐阜県）「デジタル技術によるカッチャの製作」
野村 敏郎（灘中高地学教諭）「2016年世界砂金掘り選手権大会（アメリカ・カリフォルニア州）参加報告」

ポスターセッション

- ①鈴木 卓也（宮城県）「北上山地南部の産金と産鉄」
- ②チーム博物館「常葉金山遺跡 その2」

編集後記

さようなら2016年。ハロー 2017年。博物館にとってもいろんな形の出合いと別れがあった激動の年でしたが、目標を見据えて目指すべきものを見失わないように、新年も突き進んでいきたいと思います。そんな新年開館初日は2日(月)。翌3日(火)までの2日間は、チケットご購入のお客様先着200名様に、新年の干支「酉」にちなんだお守り根付をもらえなくプレゼント。売店では、「福缶2017」や、博物館オリジナルの福袋を各種ご用意しております。砂金採り体験室では、新年恒例「古銭GETで金銀たまごくじ」。体験時に、砂の中から古銭をGETした方は、たまごの中に入っている景品がもらえるくじ引きチャンス！お正月休みはぜひ当館へ遊びに来てください。ただし1月4日(水)は休館日となりますので、お間違えの無いようにご来館くださいね。

新年の開館時間：午前9時～午後5時迄(受付は午後4時30分迄)

休館日：毎週水曜日(12月28日から翌年1月1日までの5日間は年末年始休館です。)

博物館だより

第78号 平成28年12月25日

〒409-2947 山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先
TEL 0556-36-0015 FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス <https://www.town.minobu.lg.jp/kinzan/>

博物館Eメール yunoking@town.minobu.lg.jp もーん父さん  